

第 4 回幸せになるための教育を実現する会議 議事録

日 時 令和 4 年 8 月 3 日（水）午後 3 時～午後 5 時

場 所 庁議室

委 員 神谷、鈴木、大崎、曽根、三浦

そ の 他 市長、企画部長、学校教育課主任指導主事、企画課長

議事録作成者 企画課 内田



1. 報告

7 月 26 日の教育委員会との意見交換について

○委員長

教育委員会にこの会議の趣旨や進捗状況を報告しました。この会議の目的である子どもの幸せ、より良い教育を目指すことについては教育委員会と同じ方向を向いていることで共有が図れました。取組みたいことは多様性のある社会で自律した子どもを育成すること、子どもたちが自分の基準で幸せについて考え、夢を持ってもらう、などを目標に持っていることを伝えました。子どもの幸せ、より良い教育を目指すためにビジョンを明らかにし、教育委員会に対し具体的に伝えていく必要性を感じましたので、提言でまとめていきたいと考えています。その上で教員の負担軽減が必要であることの意見交換もできました。

教育委員からは子どもを中心に据えた議論であるべき、教員の資質向上の機会があると良いなどの意見を頂きました。

○主任指導主事

この会議と教育委員の目指すところは同じで、同じ方向を向いていると感じました。多忙化解消の話は、子どもの幸せやより良い教育を目指すこととのつながりが伝わりにくかったかもしれません。提言にあたっては教育委員会が何をするのかを明確にした方が良いと感じました。

○委員長

市長と教育委員会が教育政策について協議・調整の場である総合教育会議が開かれる 9 月 28 日までに、この会議の提言できれば良いと考えています。教育委員会が取り組みたいことを思い切って実行できるよう、背中を押してあげるような提言ができたら良いと思っています。

○委員

委員長の話をどのように教育委員が受け止めたかの把握し、この会議へのフィードバックを事務局にお願いしたい。

また、委員長は公式の場において発言する場合は、個人的な考えを伝えるのではなく、この会議で決定したことを話してください。なお、総合教育会議は市長に任せるのが良いと思いますので、委員長は出席する必要はないと考えています。

教育委員はこの会議の議論をしっかり本気で見てくれており、期待できますので、しっかり議論していきましょう。

○委員長

会議後に、何人かの教育委員と雑談しました。親や地域をどのように巻き込んでいくかなど課題についての話をしました。

○企画課長

私も教育委員会への報告に同席しました。目的は教育委員会が目指すものと共通していると感じました。自ら幸せを考えるための自律の支援と教員の負担軽減がこの会議の2本柱で、委員長が説明しましたが、ある委員からは教員の負担軽減が目立つと本来の目的がずれてくると意見がありました。また、幸せになるための教育を実現する会議で議論していることは、本来であれば、教育委員会としても考えていくべきものとの意見もありました。

○委員長

この会議としては、提言で終わるのではなく、現場で実行してもらったうえで、子どもたちの幸せに繋がるのがゴールです。スタートは提言することになりますのでしっかり議論をお願いします。

2. 議題

(1) アンケート結果について

○事務局

アンケート結果資料に基づき説明。また事前に自由記載を含む回答のすべてを委員に配布。

○委員長

2-0で子どもたちが自分の幸せとは何かを考え、幸せを実現できる力を身につけるために取組みたいことがある先生が6割との結果は多いと感じました。

○委員

その通り多いと感じました。また、クロス集計にもあるとおり世代による違いがあることがわかりました。

○委員

3-0の障害となっていることの要因はわかりませんか。

○事務局

その後の自由記載で要因がわかるケースもあります。時間がない場合ですと、そもそも業務量の過多、授業以外の事務仕事を軽減して欲しいなど、人を増やしてほしい要望が多かったです。

○委員長

自由記載はすべて読みました。印象として、やはり教員は多忙である印象を受けました。

○委員

クロス集計の年代別の障害では、若い人ほど時間がないと答えているのは、若い先生の方が部活や地域のこと等庶務的な仕事を行っているからではないでしょうか。

○市長

3-0の障害についての実態は主任指導主事に確認をお願いしたい。

○委員

アンケート結果全体を見て、やる気がある先生が多くいるため、期待できると感じました。しっかり分析した上で障害を少しでも解消できれば、先生のやる気で学校は変わっていけると感じました。今回のアンケートに回答してくれた先生の期待に応えるため、この会議でしっかりアンケート結果を分析した上で必要な対応を提案する必要があると思います。このアンケートを実施したことにより先生方の期待も高まっていると思います。

ただし幸せになるための教育について、アンケート結果にある取組みたいことと、私たちが考える幸せ教育とは一致していない可能性がある点は注意が必要です。

○委員長

やりがいを増やしていくことは幸せを感じる時間を増やしていくことにつながります。5-0 の問いで、幸せを感じるのは多くの先生方が子どもの成長、笑顔、この点も大切にしたいと考えます。

○委員

アンケート結果で使われている幸せと私どもが求める幸せとは同じ幸せという言葉ですが、意味が異なる可能性があります。

○市長

ねらいで示した短い文章でしか伝えていませんので、幸せをどう理解しているかについては、確認が必要です。また必要であればこちらから伝えていく必要があると思います。

○委員

まず、0-1 の教員の年齢構成をみると、半田市は非常にバランスが良く理想的な年齢構成だと思いました。

年代別の時間がない点について私なりの考え方を述べます。教員育成は 10 年単位で考えられています。新任から 10 年は子どもへの指導力を身につける期間、10～20 年はミドルリーダーとして学校のマネジメントが加わります。この世代は指導力を身につけることもしながら、学校の管理業務も行っていくので多忙と感じるのではないのでしょうか。20 年～はそれらを経験している年代なので視野も広くなり余裕ができてくるのかもしれませんが、クロス集計の 1-0 で 40 台以降の YES が 50%を超えるのは、自分の子どもも成長してきており、幸せについてしっかり考えてほしい点もあるからではないのでしょうか。

若手が多忙感を感じているのは部活であるのか、事務処理であるのか、分析をした上で、対応する必要があると思います。

○委員

このアンケートは行政としてやるべきことを探ることが目的ですので、我々はどこに予算をかけると効果的であるか熟慮しなくてははいけません。そのような視点で評価しなくてははいけないと思います。

○主任指導主事

30 歳代に時間がないとの回答が多いのは、自分の子育てをする世代が多く、家庭にかかる時間も多いためから当然だと思います。更に学校でもやらなくてははいけない仕事が増えてき

ます。

○委員

教員の負担軽減は枝葉の話であると思います。大切なのは幸せを考えること、幸せを実現することだと思います。なぜ、この会議の議論を教育委員会で行わないか疑問です。また、この会議でまず、幸せの定義を確立しないと枝葉の話ばかりになりがちです。

○委員

その定義で重要となってくるのが次の委員長ペーパーであると思います。また、我々の議論は、本来、教育委員会の仕事であると思っている方はいるが、教育委員会の中で取り組むには難しいと思います。今回、市長が公約のこの取組を行っていくために、この会議を立ち上げました。

○市長

新しいことに追加で取り組む場合、今の負担を軽減しなくてははいけません。市長として負担軽減できることがあれば枝葉の部分ではあるが大切なことだと考えています。負担を軽減することによって現場で取り組めることが増えると考えています。

また、教育委員会とのすみわけについては非常に分かりにくい部分です。教育には、政治や行政が介入をしないといった歴史的な流れがあります。幸せになるための教育を行うという市長公約を実現するための方法として、法に則り総合教育会議を活用することとし、今回の会議をスタートしました。対立するものではなく、協力する関係で進めていくことが重要であると思っています。

○委員

過去の戦争の反省から政治や行政が教育に介入せず、独立する仕組みとして、教育委員会という組織ができました。今の教育委員会は文部科学省が決めたカリキュラムをどう教えるかに労力を注いでいます。そのため「幸せ」をキーワードとして教育を考えましょうという発想は持ちにくいと思います。業務として決まっていることが多い中、市長の公約に沿った取り組みをするということは、難しいことだと思います。

○委員

この会議で新しいものを生み出していく点でこの会議が立ち上がって取り組んでいくことが理解できました。

○委員

今の教育では、人生の目的、教育の目的である幸せになることが議論されてきていません。

○委員長

教育委員会とも連携をしていかなければいけないと思っています。この会議が新しい取組によって、より良いことに取り組んでいくことだと思います。

○委員

幸せを考えると新しいことに挑戦していくのがこの会議の目的です。人生と教育の最大目的である幸せと、それを追求するための授業を行うことが重要です。その実行のために予算等を活用して環境を整備すると理解しています。

○委員長

新しい取り組みをするためには業務の削減も必要とアンケートでの回答がありました。その通りだと思います。現場での具体的な内容は教育委員会で考えていただきたいと思います。

（２）認識の共有について

○委員長

提言のベースとなるものとして作成しました。すでにメールで送っていますので忌憚のないご意見をお願いします。

○委員

最後の部分について伝えたいことを置きすぎている印象です。先見的な半田市の取り組みとして前進したいで伝わるのではないのでしょうか。

○委員

何の余論もないと感じました。きれいすぎる文書で、何も変える力もない文章だと思います。もっと朴訥な表現でよいと思います。押しつける現在の教育の問題点について、子どもや社会が健全であれば何の問題もないと思います。現在の子どもや社会がどのような点で良くないかを根拠となるデータを示し、表現したほうが良いと思います。

私は、人生と教育の最大の目的である幸せという概念を明確に入れてほしいと思います。今の教育の結果、国際比較でみると、最も幸せを感じていない子どもたちが生まれています。問題点として、若者に勤労意欲低下、離職の増加は、企業にとっては致命的な状況となっ

ています。その結果、国際競争力が低下し、日本の将来に明るさを感じなくなってきました。危機感や切実感が伝わる文章とすべきと思います。

委員長の作るペーパーによって教育委員会、校長先生のやる気を引き起こすものでなくてはなりません。

○企画課長

まず、課題を明確し、だから幸せになるための教育が必要とする展開の方が読みやすいのではないのでしょうか。冒頭の文章は子育て支援の視点であり、教育の観点が不明確になってしまっていると感じます。

次に多様化する社会や未来を見据えて自ら考えることの必要性、取り入れるべきことを書き、その後どのようなことを実施していくかという改善策を盛り込んでいくと説得力が増す文書になるのではないのでしょうか。

○委員

今の教育に幸せという概念がないことは課題であると思います。

○委員

市長の想いである幸せについて考えるまち、市民という概念は市民全体にむけ発信してもらい、その次として特に力を注ぎ小中学校の教育現場で取り組むとしてもらいたいです。そして、小中学校での取組が続けていけば、やがて多くの世代に浸透していく展開は理解できます。

小学 6 年生の図工で 10 年後の私を粘土で作る授業があります。子どもは真剣に考えます。同じように 10 年後の自分をイメージして、今足りないことを考え、やるべきことを考えさせます。このような具体的な取り組みを小中学生の 9 年間で毎年、定期的に続け、考える機会を設けることが、幸せを考えることにつながっていくと思います。このような教育が半田市でできると良いと思います。

○委員長

問い続ける、考え続けることは重要な点です。

○委員

義務教育の中の問い続ける、考え続けることを仕組みに落とし込む必要があると思います。更に自分の幸せを決めて終わりではなく、そのためには何が必要かなど問い続けてほしいと思います。

○委員

提言のためにいま考えている部分もあると思いますが、提言が終わる 9 月 28 日以降はどうなるのでしょうか。

○委員長

提言したのち、見守りを継続していきます。効果として表れてこなければ再度、提言を行うことはあると思います。まず総合教育会議までに市長に提言できたら良いと思います。

本日皆さまから頂いた意見を反映し再度作成し、次回の会議前までに皆様にご提示します。

（３）提言にむけて

○委員長

9 月 28 日の総合教育会議に向け、それまでに提言を行いたいと思います。

○委員

総合教育会議は市長が想いを語る場ですが、この会議として想いを伝えますか。

○委員長

総合教育会議は市長が想いを語る場であるため、この会議の想いを伝えることは考えていません。ただし、市長に対し、それまでに提言を実施することを考えています。その提言をどのように取り扱うかは市長次第です。

○市長

9 月 28 日の総合教育会議は市長と教育委員会の調整の場です。決定権があるものではありませんが、公式に市長が教育委員会にもの言える機会です。年に 1 回のみのものではありません。

<終了>